

2-1 石積護岸のハビタットとしての機能形成

(2) 生息空間としての機能

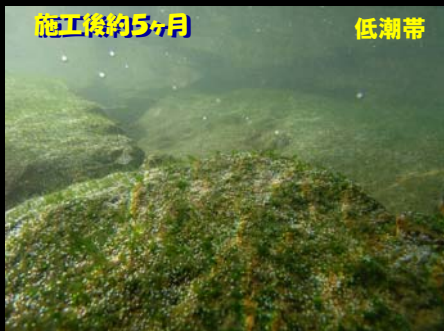
- 石積の間にカキ殻、土粒子、擬糞等が堆積。
- ゴカイ類、イボニシ、アカニシ等の貝類が生息空間として利用
- ヤドカリ類やケフサイノガニ等の小型甲殻類が生息空間として利用



石積間に堆積したカキ殻、土粒子、擬糞等。ヤドカリ類、ケフサイノガニ等が多数生息する。

2-1 石積護岸のハビタットとしての機能形成

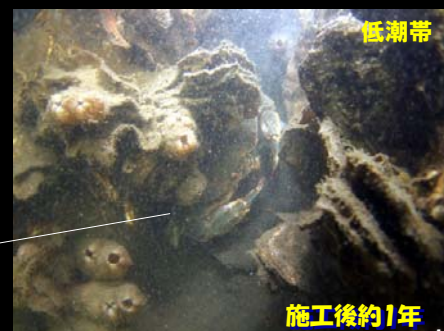
(2) 生息空間としての機能



石積み表面へのアオイワ属の着生  
改修前は海草藻類はほとんど見られなかった。

石積み間隙を生息場とする

イシガニ ←





低潮帯

(3) 餌場としての機能、

及び幼稚魚の成育場としての機能

- ポラやメジナ等の幼魚が餌場として利用 (石積上の付着藻類や微小動物を採餌)
- 幼稚魚にとっては、隠れ場としての機能も有している。

施工後約1ヶ月  
石積の付着藻類を採餌するポラの幼魚

施工後約1年  
石積上に蟠集するハゼ類、  
ギンポ類の幼魚



低潮帯

(3) 餌場としての機能、及び幼稚魚の成育場としての機能

石積み上を群泳し採餌を行うメジナ幼魚の群れ

施工後約1年、1工区観察ライン(測線No.82)近傍の低潮帯

※メジナ幼魚の体長は5cm弱



## 2-1 石積護岸のハビタットとしての機能形成

### (4) 産卵場としての機能

中～低潮帯では、捨て石に付着したカキ殻をウミウシ類、貝類が産卵場として利用している。



低潮帯

ウミウシ類の卵塊: 施工後約8ヶ月



低潮帯

カキ殻に産み付けられたイボニシの卵塊  
施工後約11ヶ月

21

## 2-2 石積護岸のハビタットとしての機能に関する検証結果

- ハビタットの基盤 → 捨て石上にマガキ群集が成立
- 生息空間としての機能 → 石積み間隙にカキ殻、土粒子、擬糞等が堆積、貝類、小型甲殻類等が利用
- 隠れ場 → 小型甲殻類、魚類等が利用
- 採餌場 → 小型甲殻類、魚類等が利用
- 幼稚魚の成育場 → ボラ、メジナ、ギンポ類、ハゼ類の幼魚が利用



ハビタットとして、様々な機能を発揮しつつあると考えられる

22